

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成31年1月15日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670103730
法人名	有限会社 友星メディカル
事業所名	グループホーム 笹貫の家(2階)
所在地	鹿児島県鹿児島市小松原一丁目1番2号 電話 099 - 268 - 2627
自己評価作成日	平成31年1月15日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成31年2月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームの理念である『あなたが今できることを大切に』『あなたの想いを大切に』を根本として、利用者様お一人おひとりを中心とした、アットホームな環境・雰囲気の中で利用者様が日々を穏やかに過ごしていただけるように支援しています。宇宿地区の中にあるグループホームで、ホームすぐ裏を市電が通っていて最寄り電停も徒歩3分。国道側にはバス停もあり、市電乗り継ぎでJR宇宿駅も最寄りにあり、公共交通機関にも恵まれています。定期的に利用者様やご家族様・職員が一緒になり、近くの大型ショッピングセンターやレストラン等へ外出する機会も計画し、利用者様やご家族様にとって楽しみの一つとなっています。『いつまでも美味しく食事が摂れて』の理念の通り、食べられることを暮らしの中で大切なことの一つと捉えており、従事する栄養士が考案した献立内容で、栄養バランスを考えた食事となっており、おいしく食事等できるように、協力歯科医院の口腔管理を中心とした、口腔ケアの実践も日々行っております。小松原1丁目町内会に加入しており、町内会主催の夏祭りや、東谷山校区の運動会、秋に企画実施している、町内会に加入している、他の複数の介護保険事業所との合同で行う「小松原1丁目交流会」を行い参加する等、地域に根ざした交流や取り組みも盛んに行っています。H30.10月から当法人で訪問看護ステーションが始まり、利用者様の日常の健康管理にも配慮して、必要な医療を安心して受けられるように支援しています。『笑顔の絶えないグループホームに』を一番の目標として、利用される皆様が、日々の暮らしを笑顔で安心穏やかに過ごしていただけるように、ご家族様のご協力も頂きながら、目の前の利用者お一人おひとりを大切に、心から寄り添えるようなケアを、職員全員で取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	毎朝の朝礼で「理念」を唱和し、利用者が主体的に生活できるように、地域・家族と共に支えていくという認識を高め、利用者が安心して穏やかに生活できるように、再認識し職員同士で協力し合っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域と町内会主催のイベント(夏祭り、運動会、敬老会)にはできるだけ参加させてもらっている。また、月1回の地域清掃を利用者と共に行っている。男性職員に限るが、町内会主催の地域の夜間防犯パトロールにも参加させてもらっている。		
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	運営推進会議で、地域の方や家族、利用者も参加していただき、認知症についてのテーマで研修を行ったり、地域の行事に参加することで、理解を深めるよう働きかけている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	概ね2ヶ月に一度の開催。これまでの運営報告や今後の取り組みについて、運営推進会議で話し合ったり、外部評価や情報開示に関しての報告等を行っている。そこでの意見を笹貫便りに載せ、家族の共通理解を得るよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	担当地域の長寿あんしんセンター職員とは、運営推進会議にて情報交換している。生活保護の担当者や介護保険課、高齢者福祉課には、役所に出向いて必要に応じてサービス上の相談や、協力を得られるようにしている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止マニュアルを作成している。月1回の定例ミーティングにおいて、定期的に身体拘束をしない為の研修を繰り返し実施している。外出希望の強い方の行動パターンを知り、1階、2階の職員間でも情報を共有し、お互いが日常においても身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々の更衣時、トイレ時、入浴時等での身体チェックを行い、虐待と認められるような痕跡がないかを注意深く観察したり、月1回の定例ミーティングにおいて内部研修または外部研修等において、職員の認識を高めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	管理者や職員は、成年後見制度の研修を受け、学びを深めている。権利擁護についての研修もミーティングで行うようにしている。現在の利用者で成年後見制度の該当者はいないが、今後必要になる事を見据えて話し合うようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約を行う際は、契約書について丁寧に説明し、疑問がないかをその都度確認しながら行っている。また内容について具体的な例を挙げ、できるだけわかりやすく理解していただけるように心がけている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>運営推進会議を活用し、家族や利用者の意見を反映できるようにしている。意見箱や相談苦情ノートを設けているが、日ごろから何でも話せる雰囲気作りを心がけている。直接管理者、職員に意見を言うことができることが多く、ニーズに応えられるように努めている。</p>		
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>月に一度の管理者会議やミーティングにより、代表者や管理者は、職員からの意見を聴く機会を設け、会議で決まったことを運営に反映させている。</p>		
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>代表者は、管理者からの連絡相談を受け、職員の勤務状況や実績などを把握している。配置転換や各個人に見合った職場への異動等も適宜行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内外の研修案内が、随時管理部経由で情報発信され、職員・管理者はそれぞれのレベルに合わせ、必要とする研修に参加している。また新人に対する研修は、日々の業務の中で中堅スタッフにより、アドバイスや実践トレーニングが行われている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>管理者会議により、管理者同士の交流や情報交換が行えている。また地域・町内会主催のお祭りや運動会、交流会などに於いて、他事業所との合同行事を開催することにより、相互のサービスの質向上や職員同士のスキルアップの刺激となっている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>本人自ら、不安・悩み・苦しみ・喜び・困っていることを訴えることができる場合は、ゆっくり話を傾聴し本人の安心できるような声かけに努めている。また自ら訴えられない方に対しては、様子を伺いこちらが見極め、安心していただける関係作りに努めている。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>かねてからコミュニケーションを図れるよう心がけ、家族の要望・不安なことは、随時相談していただけるような機械を設け、職員間で情報の共有に努め、同じように対応できるように心がけている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>今現在気になっている事、心配な事、必要な事、身体状況等の情報を伺い、家族の負担が軽減できるよう、本人にとって一番適切と思われるサービス等を紹介している。(訪問マッサージ等)</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>日々の生活の中で、日ごろからコミュニケーションを図りながら顔馴染みの関係を築く努力をし、利用者と同じ目線に立ち、一緒に過ごすことで、お互いを必要としている事、同等の立場であることを認識してもらえよう努めている。また感謝の気持ちも忘れずに伝えられるようにしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の生活の中での喜びや不安を一緒に分かち合い、職員も同じ立場に立ち、本人が楽しく穏やかに過ごせるように、家族と協力して支援できるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者にとって馴染みのある方との面会や電話など、いつでも受け入れており、関係性の継続支援をしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの個性を把握し、相性の関係等を考慮し、トラブルにならないように支援している。また、入居者同士がお互いを認め、それぞれができない事を支え合えるような、関係作りの支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されても、いつでも相談や支援をできるようにしている。今でも退去された方のご家族と交流があり、何かしら連絡して下さったり、声をかけていただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりにおいて、表情・行動からの「気づき」を大切にし、関係性を大事にしながら利用者がどのような生活をしたいのか把握できるように努めている。意思疎通の困難な方には、家族からも情報を頂くようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、本人・家族にお願いして、これまでの生活歴が把握できるよう、聞き取り等において情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別に一日の過ごし方・心身状況・変化・気づきを日誌等に記録し、できたこと、嬉しかったことを含め、常に職員間で同じ情報を共有できるように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活の中で、利用者の思いや必要としていることを汲み取る努力をしている。本人や家族の意思を確認し、担当職員を中心にアセスメントを行い、利用者が一番良いケアができるようプランを作成している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や、ケアの実践・結果・気づきや工夫を介護記録に記入している。入居時や状態変化の激しい時等に応じ、24時間シートを使用して職員間で情報を共有している。利用者の水分・排泄の記録を行い、個別にファイリングしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	臨時の病院受診の際の送迎支援を行っている。また臨機応変に利用者の個別の外出にも職員が付き添っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員と意見交換する機会を設けている。校区の運動会、町内会の夏祭り、交流会等に参加し地域の方と接し、協働支援している。またボランティアも積極的に受け入れ、本人の力を引き出す手助けの一部を担っていただいている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に必ず、かかりつけ医の有無を確認し、本人・家族の意向をお聞きしている。通院や往診等を希望される医療機関を受けられるよう支援している。またホームでの様子を記録したお手紙を作成して情報を伝えられるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>日々の生活の中で、得た気づきやいつもと違う変化を大切にし、職場内の准看護師に助言をもらったり、必要があれば受診につなげている。また訪問看護師にも状況・気づきを伝えてアドバイスをもらっている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>職員が入院先に出向いて状態などを伺い、情報交換したり、カンファレンスに参加させていただいて、ホーム側の意向を取り入れてもらい、できるだけ早く退院できるように努めている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>終末期に向けてのケアはこれまで経験が無いが、終末期を見据えた利用者については家族と面談を行い、今後についての方針を話し合うようにしている。職員の心情も聞き取り、話し合いの場を設けている。その時がきた時に、どうするかの話し合いも適宜行っている。</p>		
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>救急救命ファイルを作り、年2回の消防署員により、心配蘇生法・応急手当、初期対応の指導を受けたり、研修・ミーティング等において、実践が身につく勉強会を繰り返し行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練の実施、職員間の連絡網の周知、ミーティング、研修においてマニュアルの確認を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者に対しては尊敬の念を表し、傷つけてしまうことのないように、親しみを込めた中にも言葉遣いには細かい注意を払っている。個人情報等は目に付かないところに保管している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で、利用者の態度や表情の変化に気を付け汲み取り、何をしたいのか、何をしてもらいたいのか、声かけにて聞きだし、最終的には本人に自己決定してもらうようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人の性格や日々の生活リズムを理解し、個々のリズムを大切にしながら、職員側の都合を無理強いしないで本人のペースに沿うよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	起床時に整容し、自己決定できる方には本人に服を選んで着替えてもらっている。必要に応じてホームまで美容師に来てもらい、ヘアカットしてもらっている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の下準備を一緒に行ったり、メニューを通して話をしたりしている。職員も同じテーブルを囲み、同じ食事を摂りながら、食事中も箸の進まない方、食べ方のわからない方に声掛けし、楽しい雰囲気の中で食事していただいている。下膳や皿洗い、トレイ拭き等も手伝っていただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士による献立により、バランスのとれた料理を提供している。食事と水分摂取量を記録し、全職員が把握している。持ちやすい食器や、個々に合った食事の形態にも工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きの声かけを行い、見守りや介助を行っている。就寝前には義歯洗浄と消毒をしている。定期的に歯科受診を行い、管理ファイルを作成し、全職員が周知できるように努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンをチェックし、定時でのトイレ誘導を行い、なるべく失禁のないようにしている。失禁時は下清拭・更衣を行っているが、自尊心を傷つけないように細心の注意を払っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日10時のお茶時にヨーグルトを提供している。日中の水分補給の充実や、散歩・廊下歩行、レクリエーション・家事参加・腹部マッサージを心がけている。どうしても便秘がちな方に対しては、主治医処方 of 緩下剤を使用されている方もいらっしゃる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	週2回の入浴を基に、その人の体調、希望を踏まえながら、なるべくその人に合ったタイミングで入浴していただけるように入浴支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後は短めの昼寝を促したり、個々に合った休息の仕方を取っていただき、夕食後ホールでくつろがれている時に、飲み物を勧めリラックスしていただいている。声かけにて入床を促し、精神的にも安心していただけるよう寄り添い、声かけするよう心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病院受診ファイルで管理し、職員が薬の目的や副作用・用法用量等について正しく理解している。服薬時は、その方にあった服薬方法で飲んでいただいている。手の平に渡す方、服薬ゼリー等に混ぜる方など、きちんと飲み込むまで確認している。一人ひとりを良く観察し、変更のあった際は勿論、変化のある時は主治医に連絡するなどして、すぐに対応できるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の能力を見極め、それぞれが得意とすることで力を発揮し、やりがいを持っていただけるように、一人ひとりに合った役割を模索し、自信や張り合い、役割をもって生活できるよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	家族の協力のもと、できる限り希望に添えるような支援を心がけている。毎日でも散歩に行きたいと希望される方もおり、なるべく希望に添えるように個別で支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>家族よりお小遣い程度、お金をお預かりし管理しているが、日用品をはじめ、何か欲しい物がある際は、いつでも使えるように支援している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>利用者の希望に応じて電話を代わりにかけて差し上げたり、手紙が出せるように支援している。また遠方の身内から贈り物が届いたら、お礼の電話をかけてもらう支援をしている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>光は、カーテンや照明で配慮し、室温は空調等で調節している。利用者にとって不快となる音を職員がたてない努力をしている。季節ごとに、季節感のある貼り絵や切り絵等を可能な方には一緒に作っていただき飾っている。</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ホールにはソファが置いてあり、利用者同士仲良く座り、談笑したり歌ったりされ寛がれている。ソファを自分の居場所として捉えている方もおり、思い思いに過ごせるように支援している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>自宅より馴染みの使い慣れた家具・生活用品・装飾品を持ち込まれ、安心して過ごせる環境づくりをしている。壁面には写真・壁時計・カレンダー等が飾ってある。</p>		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>建物内はバリアフリーになっており、至る所に手すりが設置してある。各居室の入り口には表札がある。トイレには入口・ドアに「お便所」浴室前には「湯」の暖簾が下がっている。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない